





**訪問者歓迎センター**  
 (Centro de Recepción de Visitantes)  
 Plaza del Azoquejo, 1 · 40001 Segovia  
 Tel. +34 921 466 720 · Fax. +34 921 466 724  
 segovia.turismodesegovia.com  
 info@turismodesegovia.com

**予約センター**  
 (Central de Reservas de Segovia)  
 Tel. +34 921 466 721 · Fax. +34 921 466 724  
 segovia.turismodesegovia.com  
 reservas@turismodesegovia.com

acueducto.turismodesegovia.com  
 segovia.acueducto@turismodesegovia.com

 facebook.com/TurismoSegovia  
 @TurismoSegovia

**セゴビア美術館**  
 (Museo de Segovia)  
 Calle del Socorro, 11 · 40071 Segovia  
 Tel. +34 921 460 613/15 · Fax. +34 921 460 580  
 museo.segovia@jcyl.es



D.L.: SG-244/2016



# セゴビアの水道橋 (アクエドウト)





セゴビアの水道橋は、素晴らしい建造物であり、美しさと機能性の調和があり、最年まで街の人々のために水を供給してきました。何世紀もの間、ほとんど修復されることなく今に至っています。グアダラマ山脈から運ばれた花崗岩でできた167個のアーチは、セメントやモルタルなどの接着剤を利用することなく、各々の石のバランスだけで巧みに組み立てられています。

## 概要：

セゴビアの水道橋は、歴史的に3つのパートに分かれています。

1. 郊外地区：水源と水を導き入れる場所＝水源であるフリオ川と水道橋の開始地区
2. 近郊地区：導水＝水源から街へ水を率いれる地区
3. 都市地区：導水と配水＝街まで運んだ水を各家々に配水する地区
  - a. 現在歴史的建造物として見られる水道橋
  - b. 地中の水路

給水は15世紀の記録あるとおり、フリオ川の堰で見られます。水は高低差を利用し、卓越したセゴビアの自然をめぐり街に届きます。街から見られる橋のアーチを流れる前に、水は2つの除砂場を通り、砂や葉などの不純物が除去される仕組みになっています。セゴビアの旧市街内城壁を巡る水路はこの除砂場から始まり、洗練された分配システムにより、街の給水所や各重要な屋敷内の給水タンクに届きます。最後の区間は地中に隠された水路により、アルカサル城内に到達し、水の長い旅は終わります。この全行程は“水の母”として知られていました。

## 特徴：

- 全長：16220m（フリオ川堰からアルカサル城門まで）
- ・堰（1929年に作られたものも含む）から最初の除砂場までの区間：13393m
  - ・二つの除砂場の区間（両除砂場の長さを含む）：794m
  - ・サン・ガブリエル除砂場からアベンダーニョ宮広場の区間：776m
  - ・ガンダセギ司教通りから城門までの地中の水路：1220m
  - ・水勾配：0.3%（橋）～5.53%

水路の大きさ：25×30×30cm

最大水量：毎秒20～30リットル

最高位：28,10m

支柱の数：120柱

アーチの数：167個

アーチの内径：4,50m

花崗岩パーツ：20400個

一つの花崗岩パーツのおおよその体積：7500m<sup>3</sup>

## トリビア：

**名前の由来：**アクエドゥクトとは二つのラテン語の言葉に由来します。

すなわち水＝アクア（AQUA）と導引＝ドゥッセーレ（DUCERE）の造語です。

**建造年：**実際の建設開始日は知られていません。しかし、専門家によれば1世紀または2世紀前半の建設と判定されています。

**最初の記録：**1201年 セゴビア大聖堂に残る書記

**最初の引用美術：**

- ・ペニャスルビアス教会（12世紀）内のロマネスク様式装飾腕木。
- ・1280年のアルフォンソ10世・カンティガ（中世期の詩とモノフォニック宗教音楽）107番“知”の挿絵

**歴史的文化的財認定：**1884年10月11日の王令により

**世界遺産認定：**1985年12月6日 ユネスコ認定

## 伝説：

セゴビアの伝わる伝説によると、ローマ人は水道橋の“母”ではありません。

水道橋は人心の「怠惰」から生まれたとされています。

水運び（中世、水道の無い時代、人家をまわり、水を売る仕事がありました。）として働いていた少女が、街の急勾配の坂道を、水壺を持って運ぶのに耐えきれなくなり、悪魔のトリックに引っかかってしまいます。悪魔は少女と契約をします。「明日の朝、日が昇り、一番鶏が啼く前に、家の門まで水を引くことができたなら、魂を頂くと悪魔は言うのです。

少女は後に自分のしたことの過ちを気付き、魂を失わないようにやせ細ってしまうほど、祈り続けました。祈りは届き、街に嵐が来て、暴風雨が悪魔の仕事邪魔します。しかし悪魔は猛然と水道橋の建設を続けます。

街に朝日が差し込み、突然、鶏が鳴きだし、悪魔は身の毛もよだつ叫び声をあげました。悪魔の仕事は失敗したのです！あとひとつの岩を置いたら水道橋が完成し、少女の魂は失われるところでした。

少女は怠惰の過ちをセゴビアの人々に懺悔し、人々は悪魔の痕跡である硫黄の後を消すため聖水を水道橋にまき、浄めの儀式を行いました。そして街の新しい建造物を幸福として受け入れました。

今でも水道橋に見られる多くの引っかき傷の痕は悪魔の爪によるものだと言われています…

